



月刊 動力労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90. 7. 17 No. 3253

勝利をめざしてふんばるも 中労委はいる 早期審理・早期救済命令を



七月十二日、「精算事業団組合員のJR不採用事件」の中労委調査が開かれ、雨の中「事業団」の仲間を先頭に全支部から一二〇名の組合員が中労委「東京港区」に結集しJRの不当解雇を弾劾し、中労委に早期救済命令を求めてきた。

この日の行動には遠く動労西日本の代表、動労高崎連帯、動労水戸の仲間も駆け付けてくれ共にたたかってきた。

中労委闘争に参加した全組合員は、闘い半ばにして

木で鼻をくくくる当局の対応

中野委員長が怒りの弾劾

中労委総括集会で中野委員長は怒りをこめて「当局側は地労委命令にも従わず自ら再審査請求をしておきながら本日提出した膨大な証拠資料は、国労とのやりとりした資料そのものを積み上げ『これで判断しろ』という態度である。こうした木で鼻をくくるようなやり方は断じて許せない。確

するどい弾劾!

シュプレヒコール
丸ノ内(本社)に
ひびきわたる

中労委行動の終了ののち、全員がその足でJR本社前に移動し、街宣行動に入

7.12 中労委⇩本社前 抗議行動がたちどる

おりからの雨をふきとばす元気で集会、ビラまきが始まる。総連合の仲間が次々と激しい口調で当局を弾劾、その間ふたてに分かれたビラ配布隊は傘もささず、ぬれながらも一生懸命を出しビラを渡す、その気迫におされてか通行人は傘を持ちかえ、ほとんどの人がビラをうけとりながら東京駅に入っていく。本社課員はトビラを閉じ、その中で不安そうに「監視」

していた。

街宣もボルテージがあがってくるなか、千葉転の押垂支部長がマイクを握り、千葉支社・土岐区長の不法な支部破壊をばげしく糾弾し、「われわれは決して敗れてはいない。これから闘いつづける」ときっぱりと宣言し、全体も大いに盛り上がった。

その後、水野さんが総連合を代表し「血ぬられたJRを何年かかろうが必ず変

革する」と決意を訴え、最後に田中書記長が動労千葉の決意と方針を鮮明に提起し、この日の行動の成功を確認し終了した。

そして全員が、精算事業団の仲間を守り、解雇撤回・原職奪還の決意を新たにし散会した。



7.12.本社前抗議行動。

動労千葉、動労西日本、高崎連帯、
動労水戸の120名の怒りの弾劾!

JR東日本は清算事業団スト
への違法な処分をやめろ!